



左右社
新刊情報

【文芸書】【ノンフィクション】

FAX 03-3486-6584

ご担当さま 注文扱い 11月15日×切、11月21日搬入

重金 敦之◎著

『淳ちゃん先生のこと』

B6判並製 / 224頁 / 定価本体 1,800円 + 税 / ISBN978-4-86528-217-7

岡本太郎の「太陽の塔」やアメリカのアポロ12号が持ち帰った「月の石」で、人気を集めた日本万国博覧会は1970年3月に大阪の千里で開かれた。私が初めて渡辺淳一と会ったのは、その70年の初夏だった——。



ファン必読！
渡辺淳一の作家人生を
丁寧に辿った
224ページ

渡辺淳一（わたなべ・じゅんいち）
一九三三年北海道生まれ。医学博士。一九七〇年「光と影」で直木賞、一九八〇年「遠き落日」「長崎ロシア遊女館」で吉川英治文学賞、二〇〇三年紫綬褒章、菊池寛賞など受賞歴多数。晩年まで文壇の第一線で活躍した。一四一冊に及ぶ著作を発表。代表作に『リラ冷えの街』『野分け』『氷紋』『遠き落日』『長崎ロシア遊女館』『ひとひらの雪』『化身』『失樂園』『愛の流刑地』『鈍感力』『熟年革命』など。

作品は医学を題材とした現代小説、歴史小説、伝記的小説、男女の本質に迫る恋愛小説と多岐にわたる。映像化された作品も多く、本のタイトルは流行語となった。デビューから半世紀に渡る仕事を見つめ続けたいちばん近くにいた担当編集者が綴る。

渡辺淳一の横顔

華麗な現代ロマンを描く「流行作家」

『失樂園』『愛の流刑地』『鈍感力』

「渡辺教授」の「医局」と呼ばれた「やぶの会」、「ひとりの作家に百人もの編集者が群がった」。「流行作家」と呼ばれ続けたひとりの作家とその時代。

重金敦之（しげかね・あつゆき）1939年生まれ。慶応大学卒業後、朝日新聞入社。「週刊朝日」編集部在籍時に池波正太郎、松本清張、結城昌治、渡辺淳一など多くの作家を担当。食の分野にも造詣が深く、料理にたずさわる人たちからの信頼も厚い。

取次・貴店印	重金 敦之◎著		
	淳ちゃん先生のこと		
	B6判並製 / 224頁 / 定価 1,800円 + 税 / ISBN978-4-86528-217-7		冊
	重金 敦之◎著	重金 敦之◎著	
	編集者の食と酒と	作家の食と酒と	
ご担当	さま	B6判並製 / 定価 1,800円 + 税 / ISBN978-4-903500-62-1 C0095	冊
		B6判並製 / 定価 1,800円 + 税 / ISBN978-4-903500-44-7 C0095	冊

左右社 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-6 金王アジアマンション 502
TEL03-3486-6590 / FAX03-34866584